

ランシングカレッツヂ

宇佐美ケイ

在英國ケント洲

ランシングカレッツヂは、重にミツシヨナリイ(外國宣教師)の子女を教育する學校で、幼稚園から大學部までつゞく、二百五六十名の幼兒、學生を收容してゐる。廣い敷地内に餘り廣くない英國特有の蔦がはい廻つてゐる煉瓦造りて極めて感じのよい小じんまりした校舎である。學生は白のブラウスに紺のスカート、のジムドレス(體操服)の制服で、帽子も年級を示す異つたりリボンをつけたつば廣の麥わら帽子である。

最初幼稚園を見る、五歳から七歳兒三十人位、

七歳兒は中間級ともいふべきところで可なりよく読み書きをする、先きに見た佛蘭西の幼稚園ほどに規則的ではないが、幼い方にもごくやさしい本を讀ませ計へ方を教へる。五六歳兒を一緒にしてゐるが約十二三人一組で、机は學校式に並べてある。部屋の隅に砂箱を置き壁に先生が水彩畫のバツクを畫いて張りつけてある。幼兒が山を造り池をこしらへ、さりぬきの人を立たせ、紙細工の家をおき、粘土の動物を遊ばせ、草を植えるなど計畫的目的作業をしてゐる點は、我國の、進んだ幼稚園に似てゐる。時間割もちやんとさまつてゐる。手技の時間を見る。これは非常に面白いと思

つた。日本の折り紙、織紙、縫取りなどは大分趣きを異にしてゐる。麻布の眼のあらゐもの（網といった方が適當かも知れぬ）に一種の草の纖維を各種の色に染めた日本の麻のやうなもの（麻よりも柔いが）太い針に通してそれ／＼の意匠で縫ひとりをしてゐる。それ等は紙入れ、手提、中にはお母様の買もの、袋になるといふ大きい袋を縫つてゐる。ビンクツション茶瓶チャコウジン掩など實に種々様々の實用品を小さい手で熱心にこしらへてゐる。こゝろいふ仕事の時はも一つ上の級の九歳位の女兒も交つてゐる。大きい子供はラシャの切にフランス刺繡の糸で上靴に美しい縫取りをしてゐた。靴の裁断は先生がして、底は出來たものを店で求める。昔日本の家庭で足袋を自分でこしらへたやうなもので、上のきれと底とを縁ひ合せてゐるところなどよくよく似てゐる。とにかく皆實用品であつて事實使用に堪へる者をこしらへてゐるに驚

く。かうして幼い子供が如何にも手際よく針を運ぶ自分より年長の人と一緒に仕事をし、やがて自分の仕事にあきて、おとなしくどつと姉さん方の針の運びに見入つてゐる光景は如何にも自然である。かやうに混合教育をしてゐるのは、先生の關係もあるであらうが其處に大きい教育的の意味があると思ふ。日本の幼稚園と小學校は餘りに劃然と分たれてゐる。其間の連絡に就て餘り考慮を拂はれて居らぬ。小學校教育は幼稚園教育に交渉を持ちまた期待を持たうとして居らぬやうに思はれる。日本の學校教育が、學校生活と家庭生活との上に活きたつながりを持たしむる事、考慮の十分拂はれて居らぬのではないかと思つて居つたのであるが、今この一つの實際を見て、手藝の實際に重きを置き、併もそれが有目的作業である上に、恰も各自の家庭にあると同様、幼い妹たちと一緒に或はこれが手助けをし、或は自分の製作を示し

與へられた時間の短かさをかこつほどに仕事に集中する作業が其教育的効果の如何に大なるかを思はしむるのである。

次にミュージックバンドの參觀をする。これも感服したものの一つであるが、前の手技と同様、幼児と八九歳兒とが一緒に一つのバンドを組織してゐる。八歳になる女兒がコンダクターになつてソールジャーバンドを指揮したのである。樂器はタンポリン、ドラム、シンバル、トライアングル、ベルの五種で、タンポリン四人、ドラム二人、シンバル二人、トライアングル五人、ベルは十人位。ベルは十センチ位の棒の兩端に日本の鈴がついてゐるものを兩手に握つてゐる。

皆ステイジに立ちコンダクターは高い椅子の上のつてピアノの伴奏で初める。

フォータツシモ ドラムが加はり

フォータ タンポリンが加はり

ピアノツシモ 鈴のみ

大體が右のやうであつたと記憶する。ベルは皆幼稚園の幼兒であつた。相當練習の積んでゐたものらしく指揮ぶりの手にいつてゐるのにも驚いたが、樂手も皆上手、タクトを注意する面持など何ともいへぬ可愛らしいものである。自分の幼稚園でも嘗て試みたことであるが、研究の不足で其儘にして仕舞つた、更に試みて見たいと思ふ。音樂の如きも全然混合教育といふ事は不可能のこと、思はるゝが、このバンドの如きはかうした様式が實に美しく見られたのである。

唱歌も同じ子供が指揮したがその子供の指揮ぶりには實に感服した。うまいものである。

ランチタイムが十時、幼兒も生徒も各教室で或は思ひ／＼の場所でビスケット或は果物などをたべる、勿論先生方も控室で紅茶とビスケットをたべて居られた私共校長室に案内されていた。

た。

校舎も二階は校長の居室、ベッドルームを初め
數人の女先生のも部屋他に九十人の寄宿生のベッ
ドルームであるが更にナトセリと稱し満五歳か
ら六七歳の幼児のベッドが置かれてある。澤山玩
具があり廊下には乳母車、三輪車などが置いてあ
る。これらの子供の兩親は外國傳道にいつてゐる
人々である。おそらく風土の惡しき土地か蠻地に
でも働いて居らるゝのであらう最も可愛いゝさか
りの幼児とわかれ住む親の心事を察して感慨胸に
せまる。されど幼児は幸福に親心、姉心に包まれ
て居るのである。大きい人も小さい人もその兩親
兄弟の寫眞をその部屋においてある。

ノーランドブレース、ハイスクール

ロンドン在住の日本商務官松山氏の令嬢達の學
ばるゝ學校で、中流以上の堅實なる家庭の子女を

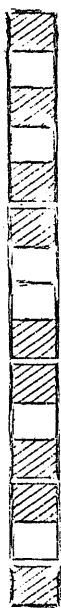
教育する相當に名の知れた私立の女學校である。
其處に幼稚部があるといふので松山夫人がかねて
から紹介して下さつた。此日は同夫人が案内して
下さる。町の内で普通の家と軒を並べた數階建て
の校舎である。勿論庭としてはアスファルトの約二
三十坪の運動場を持つだけである。然し郊外に地
所を持ち一週二回シヤラバン（大型自動車）で午
後から生徒を引率し、其處で盛に運動をするとい
ふ。ロンドン市内のよい學校は皆そうだといふこ
とである。

まづ幼稚部を見る。満四歳から六歳までとそれ
を二組にわけ、四歳から五歳の前半期までの組が
幼稚園兒で、五歳半から六歳までの組は中間級と
でもいふべきで、取扱ひによほどの相違がある。

後者は殆ど學校式で部屋も教室らしい感じであ
る。幼稚園の方はお休みが多く、手數であるとい
ふ事で五人居つた。おとなしく色圓板を並べて遊

んでゐる。種々の形に並べながらやはり数の練習をしてゐる。六までの数をしつかりいれやうといふわけで、へらしたりふやしたり、二つにわけたり、三つにわけたり、一人一人に就いて先生がゆつくり教へて居られる。如何にも落ちついて子供は色々の形を工夫してゐる。中にもすこしほしいといふ子供が出て来て、更に幾つかの圓板を加へて可なり自由に美麗式の圓板並べを約三十分位つゞける。その遊びをそのままにして、先生が繪本を持つて皆をさしまねき、床に圓座を作つてお話に聞き入る。

次の中間級がまた普通の子供とやゝ進んだ子供と二室にわかれてゐる。兩方の算術の時間を見る。



乙組 圖の如き赤と白とに塗りわけた、一から十までの數を顯す十個の二センチ平方を一とし長さ

二十センチまでの板を各自が持つて一齊に少數の加減の計算を先生が教へて居られる。別に百を示す二十センチ平方の板があつて百以上の數の計へ方をさせる。先生が一人の幼兒に百の板を出させ、次に十を二つ、他に三をとり出させて先生の机を斜面にして並べて百二十三と答へさせそれを 123 と書かせる。

甲組 進んだ子供組を見る。此處では金の計算をしてゐた。英國の貨幣はむづかしいから、こうした稽古も必要と思ふが、實貨幣を用ひていと熱心に、この幼兒等が可なりむづかしい計算をしてゐるのには驚いた。黑板に次の板書をしながら計算する、これによると分數も取扱つてゐるわけである。

L	S	D
1	13	6 $\frac{1}{4}$
3	18	6 $\frac{1}{2}$
5	12	0 $\frac{3}{4}$

佛蘭西に劣らぬ早教育である。然も其教育が實際生活に則して無理なくなされてゐるところに我等の學ぶべき點があると思ふ。

遊戯室にゆくと先きの幼兒は中間級の乙組の子供と一緒に遊んで居つた。

遊戯は別段興味あるものではなかつた。皆表情遊戯で、一つは春の野の遊びであらう、數人の男兒は蜂になりブン／＼と歌ひながら、女兒は蝶になり舞ふ。他の子供はスキートビーズ、蜂や蝶がその花にとまつて蜜を吸ふ形交代して可なり長く續ける、子供は嬉々として嬉しそである。遊戯室にそのまゝ止まり次から次とスベツシャルクラス、高等女學校卒業後の組で我補習科生の如きものまでの體操を見る。體操は純粹のスキエーデン式體操で、生徒の如何に熱心にも眞面目なのに感服した。

保育講演會

期日 十一月十五日 午後一時より

講師及演題

哲學的人間學と幼稚園教育

東京文理科大學教授 榎崎淺太郎先生
文學博士

歐米の幼稚園教育と小學校

低學年教育

東京市昭和小學校長 服部 翁先生

會場 東京女子高等師範學校

附屬幼稚園遊戯室

聴講無料

御近傍會員の多數御來聴を歓迎いたします。

日本幼稚園協會